

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270101769		
法人名	株式会社ケイ・アール共進レジャー販売		
事業所名	グループホームサニー・ライフ		
所在地 (電話番号)	〒030-0822 青森県青森市中央4丁目9番地9号 (電話) 017-774-5555		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 1月 20日	評価確定日	平成 20年 4月 8日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 24日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82.5 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	芙蓉会病院・あおり協立病院・斉藤内科小児科・まつもと歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>青森市内の中心部で交通の便が良く、周辺には公共施設等や公園等がある住宅地に位置しており、地域住民との交流や近隣の公共施設と関わりながら暮らしている。ホーム内では利用者一人ひとりのペースに合わせた職員のさりげない心遣いが自然に表れており、家族的な雰囲気作りに努力している様子が随所に見られた。職員は研修に参加したり、職員会議等や家族等からの意見を聞く等、利用者のサービスの質の向上に努力されている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題はなし。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議やフロア会議等で話し合いが行われており、改善等の意見が出され、管理者及び職員は理解を深め取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族等の参加者も多く、苦情の具体的な報告や意見も表明されている。又、制度や基準の確認等市町村との関わりを積極的に持ち、サービスの質の向上に取り組まれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>最低月1回の面会は家族全員が行い、その際、利用者の日常生活について詳細に報告している。家族からの意見等はサービスに反映させ、質の向上にむけ取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会や近隣の人たちが野菜作りや収穫等に立ち寄る等、交流が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性は十分に認められるが、開設当初からの理念であり見直す時期にきていると認識している。		地域の中でその人らしく生活することを支えるという視点で、理念の見直しに取り組むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、2・3 ヶ月に1回ミーティングで話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会や近隣の人たちが野菜作りや収穫等に立ち寄る等、交流が図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議やフロア会議で話し合いが行われており、改善点等の意見が出ている。評価の意義を管理者、職員は理解しており実践している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族の参加者も多く、苦情の具体的な報告や、家族から表明された意見を、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度や基準の確認等、市町村担当者と積極的に関わり、現場の声を直接報告している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料の配布や研修等を通じて学ぶ機会を持ち、理解を深めている。また、地域権利擁護事業を活用している利用者がいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体に対する虐待はもちろんであるが、特に言葉による虐待が発生しないよう、申し送り等の際、話し合われており、全職員が理解を深めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は利用者や家族等に説明している。体制の変更や燃料費を上げる等については、運営推進会議で報告し、家族の同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>最低月1回の面会は家族全員が行っている。面会時はその都度詳細に利用者の日常生活について報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱が設置されている。寄せられた意見や要望はミーティングなどで話し合い、運営に反映されている。また、運営推進会議の中で、家族からの意見が出され、検討している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の交代時は利用者及び家族等に説明している。異動前からフロアへ出向き、顔を覚えてもらい、また信頼関係が構築されるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>公共の施設を活用し、効果的な研修を行うなど、多様な研修を企画し実施している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>合併した事業所と交流を検討している。</p>		<p>勉強会や相互訪問(現場体験)等を行い、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流になることを期待する。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>徐々に馴染めるような支援を行っていない。</p>		<p>利用者一人ひとりが安心してサービスを利用できるよう、相談の受付段階から利用にいたるまで、利用者の視点に立って柔軟に支援できるよう期待したい。</p>
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中では、おやつを一緒に食べたり、歌を歌ったり、掃除も一緒に行ったりしている。全盲の方と他利用者が一緒に散歩するなど、支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話や日々の関わり、表情から一人ひとりの思いや希望等、意向の把握に努めている。また、利用者本位の視点に立ち、センター方式を用いることで職員間で情報を共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のコアシート5種類を使用し、利用者本位の視点で介護計画の立案がなされている。面会時等家族からの情報も得ている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に見直している。また、状態に変化があった場合は、速やかにミーティングを開催し、情報を共有し同じ対応ができるようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けていくための多様な支援については、検討されていない。</p>		<p>その時々々の利用者と家族の状況や要望に向き合い、必要に応じて、利用者の生活の利便性を高めるための自主サービスの開発実施の支援に期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が行われており、いつでも相談できる体制が設備されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より話し合いが行われており、方針の共有が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿は利用者や訪問者がわからないようにしている。また申し送り時は、個人名を出さないように居室名で行う等、職員は個人情報保護に向けた取り組みを行なっている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意見を上手く表現できない方には、スタッフがその意思をくみ取り、ケアを実践している。また食事時間をずらす等、利用者の希望にそって援助を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員と一緒に配膳、下膳を行い、一緒に席に着き、食事を取っている。利用者との会話をしながら食事時間を過ごしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>定期的には週2回の入浴を行っている。夜間は足浴を行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の特性を考慮し、掃除、調理、裁縫、買い物等を行ってもらい、支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>冬季以外は畑に出かけたり、近くの公園に散歩に出かけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員全員が身体拘束に関して理解しており、拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関前のドアが開くと風鈴のような音がでるため対処できている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時や非常時は、町会の協力が得られる体制がある。また避難訓練も年2回定期的に実施されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>インターネットを利用し、1日の栄養摂取量や高齢者むけの専門的に管理されたバランスのとれたメニューを提供している。また、摂取量の少ない利用者は確実に申し送りを行い、適切に捕食を行い、水分補給も全員こまめに提供されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し、対応している。インフルエンザのワクチン接種を利用者、職員ともに全員実施している。生ものの持込を禁止し、部外者は訪問時手洗い、うがいを実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は一部対面式になっており、リビングとつながっており、家庭的な空間である。窓が広く陽射しや照明等、室内の明るさは適当である。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の利用者の部屋は使い慣れたものや、家具が配置されていた。		

 は、重点項目。